

県藻場・干潟保全対策協議会第2回研修会

平成21年12月22日 水産技術開発センター

12月17, 18日, 標記協議会による研修会が開催され, 藻場の保全に取り組む県内各地の代表や学識経験者, 各振興局など関係者50名あまりが参集しました。

研修会では, 県内外の各地の活動事例紹介, 本県栽培漁業協会が取り組んでいる藻場造成用の種苗ブロックの生産状況, 本県の藻場の現状・課題, 藻場のモニタリングの考え方等の講演や, 実際にハンディGPSを用いてセンター内を藻場にみたくて歩き回り, そのデータをパソコンに取り込み, 仮想藻場の面積を測定する高度な技術実習も行われました。

本県の藻場の現状は厳しいものがありますが, 県下各地のこれらの地道な取り組み等により藻場が復活するよう願っています。



研修会の風景



研修会風景-2
啓発用ポスターの展示



事例報告する阿久根市職員
の大石直樹氏



長崎、大分の事例を報告する
オフィスMOBAの中島泰氏
写真はユニフェンスを紹介(続く)



岩本地区の事例を報告する指宿漁協の川畑組合長（左）



藻場造成用種苗ブロックの作成状況を報告する県栽培漁業協会職員の坂口欣也氏



藻場のモニタリングの考え方を講演する（社）水産土木建設技術センターの安藤亘氏



本県の藻場の現状等を報告する鹿大水産学部の寺田准教授



島根県隠岐の島町の事例を報告する海藻研究所の新井章吾氏

（続く）

◎藻場の面積を測定する手法についての実習



ハンディGPSとカシ米尔3Dというソフトを用います。視聴覚室に移動して使用方法の事前レク



実際に使用方法を実習しました。



藻場に見立てた芝生や建物の周囲の位置をハンディGPSに記録して



パソコンにデータを取り込むと、仮想藻場の範囲が地図上に図示され、簡単に面積が計算できます。目からウロコでした。（終）